

科目名	医療事務基礎		担当教員名	安藤 信子		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	医療情報	学科	学年	2	単位数(時間数)	7単位(114時間)	
実施時期	4月～9月	授業形態	講義	<input type="radio"/>	演習	<input type="checkbox"/>	実習
教科書 及び参考書	医療事務スタンダードテキスト2.3 診療報酬の算定(上)(下) 診療点数早見表 2022年4月版 資料ブック						
授業の概要とねらい							
早見表を引くことができ、各算定料の意味と点数・加算を知り、医療事務員としてどの診療科に勤めても実務で通用する基礎的技術を身に付ける。							
到達目標							
医療事務技能検定1級に合格する。							
授業計画							
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)		
請求事務概論	医療機関とは～保険の仕組み、保険の種類 窓口業務、保険請求 カルテ上書き			14	年齢と時間帯で医療費の算定が変わることを知る。 外来、入院のレセプトを作成するなかで、特に算定回数の多い初再診から処置までの各項目の説明を行い、記載方法を学ぶ。		
初診料	時間外の加算、時間内の加算の説明とグラフの作成 算定練習、例題のプリント			8			
再診料	再診料、外来管理加算、電話再診 外来診療料、例題プリント、初再診の仕上げ			7	また、各項目ごとに算定練習をプリントを使って行う。 特に投薬料の算定については「五捨五超入」方法を学び、繰り返し行う。		
医学管理	特定疾患療養管理料、その他管理料 診療情報、薬剤情報等 例題プリント			4			
投薬料	薬剤計算			2	復習として各区分終了後、課題レセプトを配布する。 課題せれブと作成後は提出をすること。		
	内服・頓服・外用薬の違い			2			
	それぞれの計算練習			2			
	調剤料			2			
	処方料、調基、院外処方			2			
	投薬の外来・入院の計算練習			12			
注射料	注射料			2			
	筋注、静注、手技量の加算			2			
	算定練習			5			
	点滴注射、その他の注射			2			
	算定練習			7			
処置料	処置、一般処置、 算定練習			2			
	救急処置～ギプス			2			
	算定練習			5			
演習問題	診察料～処置料の総合演習			30			
合 計				114			
時間外学習について							
課題レセプトを作成し、提出する。							
成績評価の方法及び評価割合について							
定期試験の結果80%、出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が95点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
県内の様々な医療機関で医療事務員としてレセプト請求業務に携わる実務経験をもとに、レセプト請求の正確さの重要性を理解してもらう。また「現場の声」や「経験したレセプト請求の失敗例」を交えた指導を行い、施設規模によるレセプト請求業務の違いも教える。							

科目名	医療事務演習		担当教員名	安藤 信子		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	医療情報	学科	学年	2	単位数(時間数)	8単位(170時間)	
実施時期	10月～3月	授業形態	講義	△	演習	○	実習
教科書 及び参考書	医療事務スタンダードテキスト2.3 診療報酬の算定(上)(下) 診療点数早見表 2022年4月版 資料ブック						
授業の概要とねらい							
各算定料の意味と点数・加算を知り、それらを応用して、外来レセプト及び入院レセプトをスムーズに作成する技術を身に付ける。							
到達目標							
医療事務技能検定1級に合格する。							
授業計画							
	授業項目・内容	時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)				
手術	手術料の説明	5	手術料から入院料までの各項目の説明を行い、レセプトの記載方法を学ぶ。				
	算定練習	6					
麻酔	麻酔の説明	5	また、プリントを使って各項目ごとに算定練習を行う。特に麻酔料の算定、入院料の算定については計算の仕方に注意を払い、各項目での加算を覚える。				
	脊椎麻酔～硬膜外麻酔	3					
	閉麻の説明	5					
検査	算定練習	8	復習として各区分終了後、課題レセプトを配布する。 課題レセプト作成後は提出をすること。				
	検体検査説明	2					
	算定練習	3					
	生体検査・病理検査説明	2					
画像診断	算定練習	5					
	単純撮影	2					
	造影剤使用撮影・特殊撮影	2					
	算定練習	5					
入院料	シンチグラム、CT、MR	2					
	算定練習	5					
	入院料	3					
レセプト演習	病院・診療所	2	レセプトを外来は60分、入院は90分で作成できるように練習を行う。				
	算定練習	12					
	外来レセプト作成	40					
検定試験	入院レセプト作成	50	外来と入院レセプトを時間内に体裁よく作成する。				
	合計	170					
時間外学習について							
課題レセプトを作成し、提出する。							
成績評価の方法及び評価割合について							
検定試験の結果80%、出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が95点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
県内の様々な医療機関で医療事務員としてレセプト請求業務に携わる実務経験をもとに、レセプト請求の正確さの重要性を理解してもらう。また「現場の声」や「経験したレセプト請求の失敗例」を交えた指導を行い、施設規模によるレセプト請求業務の違いも教える。							

科目名	医学医療Ⅱ		担当教員名	中島 千春		□ 実務経験	
学科名	医療情報	学科	学年	2	単位数(時間数)	5単位(100時間)	
実施時期	4月～3月	授業形態	講義	△	演習	○	実習
教科書 及び参考書	オリジナル「重要ポイント集」						
授業の概要とねらい							
医療情報技師能力検定試験の医学医療科目対策として実施する。 過去問題を解いた後、解説を行う。また、臨床分野ごとの解説・問題演習を行うことで、知識を定着させる。							
到達目標							
医療情報技師能力検定試験に合格する。 臨床医学・臨床検査分野の知識を深める。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
第5章	医学・薬学・看護学		3	【オリジナル「重要ポイント集」】 各章の重要ポイントを、テキストに沿って学習する。 重要箇所の解説を聞いて、解説ノートを作成する。			
第6章	検査・診断		3				
第7章	治療・処置		2				
第8章	診療録およびその他の医療記録		2				
第9章	医学研究		2				
第10章	医学・医療統計		2				
第11章	臨床データベース		2				
模擬テスト(全8回)			32	【模擬テスト】 過去問題を解く(1時間)・解説(2時間) 再テスト(1時間)の計4時間で1セットとし、 8回実施する。70点以上を合格とし 不合格者は合格するまで追試験を実施する。			
医療情報技師能力検定試験							
臨床医学① 脳、神経			4	【臨床医学】 各臓器の名称・仕組み・関係する疾病を、スライドや 図を使って深く学習する。			
臨床医学② 眼、鼻			4				
臨床医学③ 耳、口腔			4				
臨床医学④ 呼吸器			4				
臨床医学⑤ 消化器			4				
臨床医学⑥ 泌尿器			4				
臨床医学⑦ 生殖器			4				
臨床医学⑧ 骨、筋肉			4				
臨床医学 テスト(全8回)			8	臨床医学①～⑧までの確認を1時間×8回でテスト する。60点以上を合格とする。不合格者は合格する まで追試験を実施する。			
臨床検査① 検体検査			2	【臨床検査】 各検査の名称・仕組み・関係する疾病を、スライドや 図を使って深く学習する。			
臨床検査② 生理機能検査			2				
臨床検査③ 病理検査			2				
臨床検査④ 画像検査			2				
臨床検査 テスト			4	臨床検査①～④までの確認を1時間×4回でテスト する。60点以上を合格とする。不合格者は合格する まで追試験を実施する。			
合 計			100				
時間外学習について							
解説ノートを作成すること。模擬テストで70点以上となるように復習すること。							
検定試験の結果50%、定期試験の結果30%、出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。なお、出席率80%未満の場合はD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							

科目名	医療情報処理Ⅱ			担当教員名	長尾 雄二			□ 実務経験			
学科名	医療情報		学科	学年	2	単位数(時間数)		3単位(60時間)			
実施時期	4月	～	3月	授業形態	講義	△	演習	○	実習	実技	○は主、△は併用
教科書 及び参考書											
授業の概要とねらい											
医療情報技師能力検定の医療情報システム科目対策として実施する。 過去問題を解いた後、解説を行う。また、繰り返し問題演習を行うことで、知識を定着させる。											
到達目標											
医療情報技師能力検定試験に合格する。											
授業計画											
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)					
過去問題演習①+確認テスト					5	過去問題は問題を10問づつ解き解説(全50問を3時間) 確認テスト(1時間)、やり直し(1時間) の計5時間を1セットとし、5回実施する。 確認テストは70点以上を合格とし、70点未満は追試験を実施する。 模擬試験は70点以上を合格とし、 不合格の場合は、後日、追試験を実施する。					
過去問題演習②+確認テスト					5						
過去問題演習③+確認テスト					5						
過去問題演習④+確認テスト					5						
過去問題演習⑤+確認テスト					5						
模擬試験(全5回)					5						
医療情報技師能力検定試験											
検定試験問題解説					3						
過去問題演習・解説+確認テスト					27	次回の医療情報技師試験に向けて知識の習熟度の向上を図るため不得手部分を中心に解説を行い、確認テストを実施する。					
合 計					60						
時間外学習について											
確認テストおよび模擬試験で70点以上となるように復習をすること。											
成績評価の方法及び評価割合について											
検定試験、模擬試験及び確認テストの結果並びに出席率による総合評価とし、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。なお、出席率80%未満の場合はD(不可)とする。											
その他(科目と実務経験との関連性について)											

科目名	医療情報システムⅡ		担当教員名	堤 明裕		□ 実務経験	
学科名	医療情報	学科	学年	2	単位数(時間数)	5単位(100時間)	
実施時期	4月～3月	授業形態	講義	△	演習	○	実習
教科書 及び参考書	医療情報 第6版 医療情報システム編						
授業の概要とねらい							
1年次に学んだ知識を基に医療情報システムの過去問題に取り組む。 過去問題の解答では選択に至った根拠も含め調べ学習を行うことで、病院業務の流れを再確認するとともに、授業においては認識不足を補いながら、分かりにくい部分を図式を利用して理解する。							
到達目標							
医療情報技師能力検定試験に合格する。							
授業計画							
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)		
標準化に伴う用語の解説と仕様の説明				1	2014年～2021年までの医療情報システム分野の課題を自学にて事前に解答しておく。 講義において解説を行う。 事前学習においては解答の選択理由、選択されなかった理由も併せて調べる学習を行い、問われている内容の熟考を行うこと。 調べ学習を行う場合の資料は、基本的に教科書ならびに厚生労働省が発行するガイドライン(ネットよりダウンロード可)とし、業務上や制度上で何故その選択に至ったかを説明出来ること。 未習熟と判断された場合の項目については、レポートによる項目説明を自学で行い提出する。		
病院システムの安全管理対策とガイドライン				2			
病院システムの管理責任者が負う責任範囲と責任分界点				4			
中央診療部門の電子カルテとオーダーエントリーシステム				2			
中央診療部門の放射線部門に関するシステムの流れ				2			
病理検査部門、遠隔医療の流れと実施入力タイミング				2			
中央診療部門に属するその他のオーダーとのつながり				2			
病院情報システムの導入戦略・プロジェクト				4			
病院情報システムの運用体制				2			
IHEと地域医療連携システム。データの外部保管の確認				2			
過去問題の事前解答+授業での解答・解説				16			
模擬テスト(全5回)				10			
医療情報技師能力認定試験							
3章 中央診療部門システムと他システムとの連携				20			
確認テスト				1			
6章 医療情報分野の各種マスター及び用語				10			
確認テスト				1			
4章 医療情報システムの導入戦略と用語				8			
確認テスト				1			
2章 地域医療連携の必要性と標準化				8			
確認テスト及び全範囲の習熟度チェック				2			
合 計				100			
時間外学習について							
過去問題を詳細な説明を含め、事前解答をしてもらう。授業までに課題を終えること。							
成績評価の方法及び評価割合について							
定期試験の結果80%、出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満はD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							

シラバス

作成日

2022.04.01

科目名	医療情報技師対策講座			担当教員名	中島千春・堤明裕・長尾雄二			<input type="checkbox"/> 実務経験		
学科名	医療情報		学科	学年	2	単位数(時間数)		2単位(30時間)		
実施時期	8月	～	8月	授業形態	<input checked="" type="radio"/> 講義	<input type="radio"/> 演習	<input type="radio"/> 実習	<input type="radio"/> 実技	<input type="radio"/> は主、 <input type="radio"/> は併用	
教科書 及び参考書	過去問題									
授業の概要とねらい										
医療情報技師能力検定試験の対策授業を行う。 医療情報技師能力検定試験の模擬試験を実施する。										
到達目標										
医療情報技師能力検定試験に合格する。										
授業計画										
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)				
第1回 集中対策講座					3	8月の試験前集中対策講座を行う。 3分野について実施する。 (医学医療8コマ、情報処理8コマ、システム14コマ) 分野ごとに ・模擬試験(解答、解説配布) ・模擬試験＋解説 ・解説のみ の3パターンで行なう。				
第2回 集中対策講座					3					
第3回 集中対策講座					4					
第4回 集中対策講座					4					
第5回 集中対策講座					4					
第6回 集中対策講座					4					
第7回 集中対策講座					4					
第8回 集中対策講座					4					
合 計					30					
時間外学習について										
模擬試験の予習、誤答問題の復習をすること。										
成績評価の方法及び評価割合について										
模擬試験(3分野の平均点)80%および出席率20%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満はD(不可)とする。										
その他(科目と実務経験との関連性について)										

科目名	医療保険制度 I		担当教員名	長尾雄二		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	医療情報	学科	学年	2	単位数(時間数)	1単位(17時間)	
実施時期	12月	～	3月	授業形態	講義	<input type="checkbox"/> 演習	<input type="checkbox"/> 実習
教科書 及び参考書	病院&クリニック窓口事務必携ハンドブック2022版						
授業の概要とねらい							
日本の公的医療保険制度には、国民健康保険、健康保険、共済組合、後期高齢者医療制度などがある。制度によって仕組みや特徴が異なるため、就職した際に戸惑うことのないように制度の仕組みを理解する。また生活保護、ひとり親家庭医療、乳幼児医療、労災などの医療事務員に必要な保険医療制度の知識を学習する。							
到達目標							
医療保険制度を理解し、説明できるようにする。また、公費の部分についても基礎的理解ができるようにする。							
授業計画							
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)		
公的医療保険制度について				2	記憶の定着化を図るため、随時、確認テストを実施する。		
法別番号について				2			
療養の給付について				3			
一部負担金について				2			
高額療養費について				4			
公費負担医療について				4			
合 計				17			
時間外学習について							
医療機関で必須の知識となるため復習を行うこと。							
成績評価の方法及び評価割合について							
定期試験、確認テストの結果及び出席率で評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が95点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満のものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
保険者として資格・給付業務に携わった経験から医療事務員が業務上、理解すべき医療保険制度の講義を行う。							

科目名	診療報酬知識 I			担当教員名	小田原 香織			<input type="checkbox"/> 実務経験					
学科名	医療情報		学科	学年	2	単位数(時間数)		1単位(17時間)					
実施時期	12月	～	3月	授業形態	講義	<input checked="" type="radio"/>	演習	<input type="radio"/>	実習	<input type="radio"/>	実技	<input type="radio"/>	○は主、△は併用
教科書 及び参考書	診療点数早見表2022年4月版 診療報酬請求事務能力認定試験受験対策と予想問題集2022年前期版												
授業の概要とねらい													
診療報酬請求事務能力認定試験の学科問題を分野ごとに点数早見表を用いて解くことで、基礎的な医学用語の理解を深めること。また診療報酬算定時の留意点についての知識も深めていく。													
到達目標													
診療報酬請求事務能力認定試験の学科問題の各分野の知識を深め、理解をすること。													
授業計画													
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)							
①初診・再診料					2	診療報酬請求事務能力認定試験の学科問題を用いながら、診療報酬における算定の留意点や医学用語の知識などを詳しく学ぶ。 過去、学科問題として出題された文章を診療点数早見表から探し、線を引く。 過去頻繁に出題されているページにはインデックスを貼る。 各分野の復習プリントの問題を解き、提出する。							
②医学管理・在宅医療					2								
③検査					2								
④注射・投薬					2								
⑤処置・手術・麻酔					2								
⑥画像診断					2								
⑦放射線治療・病理診断・リハビリテーション料					3								
⑧入院基本料・入院加算					2								
合 計					17								
時間外学習について													
復習プリントを解き、提出する。													
成績評価の方法及び評価割合について													
定期試験の結果80%、出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は95点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出の復習プリントがあるものはD(不可)とする。													
その他(科目と実務経験との関連性について)													

科目名	コンピュータ実習			担当教員名	中島 千春		□ 実務経験			
学科名	医療情報		学科	学年	2		単位数(時間数)	2単位(65時間)		
実施時期	4月	～	3月	授業形態	講義	演習	実習	○	実技	○は主、△は併用
教科書 及び参考書	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Word 365&2019 対策テキスト&問題集									
授業の概要とねらい										
Office ソフトであるWordの利活用法を教科書の演習を通じて学習する。 Wordの機能を使い、正確で迅速なビジネス文書が作成できる。										
到達目標										
MOS Word 365&2019試験に合格する。 ブラインドタッチによる入力ができること。										
授業計画										
授業項目・内容				時間数 (コマ)		教育活動(教材、指導上の注意点)				
Wordの基本操作説明				2		例題文で、10分間の入力速度を測る。				
入力速度測定				2						
MOS検定の説明・ソフトインストール作業				1		MOSの教科書の付属ソフトのセットアップを行う。				
出題範囲1				8		ブラインドタッチの説明と練習をする。				
出題範囲1 確認問題				1		テキストに沿って出題範囲を順に作成する。 毎回、入力テストを実施する。				
出題範囲2				5						
出題範囲2 確認問題				1		確認問題は、作成後、共有フォルダーに提出する。 提出した確認問題は採点し返却する。				
出題範囲3				4						
出題範囲3 確認問題				1						
出題範囲4				4						
出題範囲4 確認問題				1						
出題範囲5				4		模擬試験は事前に練習を行った後、試験をする。 模擬試験およびランダム試験は、制限時間40分で実施する。 正解率80%以上を目指す。				
出題範囲5 確認問題				1						
模擬試験(5回)				15						
ランダム試験(5回)				5						
MOS Word 365&2019 検定試験				1						
ビジネス文書作成(3回)				9		①ビジネス文書作成のポイントを実演・解説する(1時間) ②作成練習と入力テストをする(1時間) ③ビジネス文書を時間内に仕上げ提出する(1時間) ①～③を1セットとする。				
タイピング速度コンテスト				1		10分間の入力速度を測る。 入力数が1番多かったものと入学時の入力速度測定から入力 数が1番多かったものを表彰する。				
合 計				65						
時間外学習について										
出題範囲ごとに確認問題を復習すること。模擬試験は、正解率80%を超えるように、練習をすること。 ブラインドタッチの入力練習をすること。										
成績評価の方法及び評価割合について										
検定試験の結果60%と、提出したビジネス文書3回分の出来(見本と同等である出来)40%の100%による総合評価とし、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。なお、出席率80%未満のものはD(不可)とする。										
その他(科目と実務経験との関連性について)										

シラバス

作成日

2022.04.01

科目名	簿記基礎			担当教員名	長尾 雄二			<input type="checkbox"/> 実務経験						
学科名	医療情報		学科	学年	2		単位数(時間数)	2単位(42時間)						
実施時期	4月	～	9月	授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="checkbox"/>	実習	<input type="checkbox"/>	実技	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	○は主、△は併用
教科書及び参考書	「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級」													
授業の概要とねらい														
業種・職種にかかわらず社会人が身につけておくべき取引の基本である「簿記」を学び、企業での経理状況を把握する力を身に付ける。														
到達目標														
日商簿記検定3級に合格する。														
授業計画														
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)								
簿記について					1	仕訳が重要なため理解度を高めるための問題を解き確認する。 また、確認テストを行い習熟度を上げる。								
財務諸表と簿記の5要素					1									
記帳のルール、仕訳と勘定記入、合計・残高試算表の作成					3									
商品売買取引(三分法)					2									
掛けによる売買、返品					2									
手付金・内金の処理、商品券					2									
商品の移動に必要な支払い、立替払いの諸掛り					2									
現金・当座預金、普通預金と定期預金					2									
クレジット売掛金、約束手形					2									
電子記録債権・債務					2									
貸付金・借入金、利息について					3									
有形固定資産の取得・売却・賃借					3									
未収入金・未払金、修繕と改良					2									
仮払金・仮受金、給与					2									
訂正仕訳					2									
決算整理Ⅰ(現金過不足、貯蔵品・当座借越)					3									
決算整理Ⅱ(売上原価)					2									
決算整理Ⅲ(貸倒れ、減価償却)					3									
決算整理Ⅳ(経過勘定科目)					3									
合 計					42									
教科書で予習と授業ノートによる復習をすること。														
成績評価の方法及び評価割合について														
確認テスト・定期試験の結果及び出席率での総合評価とし、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満のものはD(不可)とする。														
その他(科目と実務経験との関連性について)														

シラバス

作成日

2022.04.01

科目名	簿記演習			担当教員名	長尾 雄二			□ 実務経験			
学科名	医療情報		学科	学年	2		単位数(時間数)	3単位(63時間)			
実施時期	10月	～	3月	授業形態	講義	△	演習	○	実習	実技	○は主、△は併用
教科書 及び参考書	「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級」										
授業の概要とねらい											
業種・職種にかかわらず社会人が身につけておくべき取引の基本である「簿記」を学び、企業での経理状況を把握する力を身に付ける。											
到達目標											
日商簿記検定3級に合格する。											
授業計画											
授業項目・内容					時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)					
精算表					6	財務諸表について繰り返し練習問題を行う。					
帳簿の締め切り					3						
損益計算書と貸借対照表					6						
株式の発行、剰余金の配当と処分					4						
税金					2						
証ひょうと伝票					2						
模擬試験1、2、3、4・解説					8	模擬試験を行い、70点以上を合格点とする。 合格点に満たない者には補習を行う。 模擬問題について、課題配布。					
模擬試験5、6、7、8・解説					8						
模擬試験9、10、11、12・解説					8						
模擬試験13、14、15、16・解説					8						
予想問題1、2、3、4解説					8						
合 計					63						
配布する課題を期日までに提出すること。											
成績評価の方法及び評価割合について											
模擬試験、定期試験、検定試験の結果及び出席率での総合評価とし、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満のものはD(不可)とする。											
その他(科目と実務経験との関連性について)											

科目名	ビジネス概論		担当教員名	小田原 香織		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験							
学科名	医療情報	学科	学年	2	単位数(時間数)	7単位(105時間)							
実施時期	4月～3月	授業形態	講義	<input type="radio"/> 演習	<input type="checkbox"/> 実習	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> ○は主、△は併用						
教科書 及び参考書	現役審査員が教える秘書検定2級・3級テキスト&問題集 秘書技能検定ケーススタディで学ぶ集中講義 準1級												
授業の概要とねらい													
企業人として期待されるマナーや振る舞い、最低限必要とされるコミュニケーション能力を、講義やロールプレイングを通して理解し、身に付ける。													
到達目標													
文部科学省後援 秘書技能検定 2級に合格する。													
授業計画													
授業項目・内容	時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)											
第4章 必要とされる資質 ①秘書としての心構え	1	教科書に沿って学ぶ。 講義を聞き、ノートにまとめて理解する。											
第4章 必要とされる資質 ②求められる人柄	1												
第4章 必要とされる資質 ③機密保持	1												
第4章 必要とされる資質 ④求められる能力(1)(2)	1												
第5章 職務知識 ①秘書の役割と機能(1)(2)	2												
第5章 職務知識 ②秘書の業務(1)(2)	2												
確認テスト「理論分野」	1												
第2章 技能 ①会議の知識	1												
第2章 技能 ②ビジネス文書について(社内文書/社外文書/社交文書)	4												
第2章 技能 ⑤グラフの書き方	3												
第2章 技能 ⑥受信文書の取り扱い	2												
第2章 技能 ⑦秘扱い文書の取り扱い	2												
第2章 技能 ⑧郵便の知識と通信	2												
第2章 技能 ⑨ファイリング、資料の整理と管理	2												
第2章 技能 ⑩スケジュール管理	2												
第2章 技能 ⑪オフィスのレイアウトと整理	1												
第1章 マナー・接遇 ①敬語/接遇用語	4												
第1章 マナー・接遇 ②人間関係と話し方・聞き方・断り方	2							確認テスト					
第1章 マナー・接遇 ③指示の受け方、報告の仕方	1							確認テストを行う。 確認テストは、「理論(資質・職務知識)分野」、 「実技(マナー・技能)分野」とに分けて実施する。 7割以上正解することを目指す。					
第1章 マナー・接遇 ④依頼・説得の仕方、忠告の仕方・受け方	1												
第1章 マナー・接遇 ⑤電話応対/来客応対	3												
第1章 マナー・接遇 ⑥慶事・弔辞のマナー	4												
第1章 マナー・接遇 ⑦贈答・見舞いのマナー	4												
確認テスト「実技分野」	1												
第3章 一般知識 ①企業の基礎知識/経営管理の知識/人事労務の知識	3												
第4章 一般知識 ②企業会計・財務・税務の知識	3												
模擬試験1～3・解説	12	模擬試験は解答を回収し、採点をして返却する。 70点以上を目指す。											
文部科学省後援 秘書技能検定													
秘書技能検定ケーススタディで学ぶ集中講義 準1級 必要とされる資質	6	準1級の演習問題は、グループワークで解答を考え、発表し合う。											
秘書技能検定準1級【必要とされる資質】演習問題・解説	2												
秘書技能検定ケーススタディで学ぶ集中講義 準1級 職務知識	6												
秘書技能検定準1級【職務知識】演習問題・解説	2												
秘書技能検定ケーススタディで学ぶ集中講義 準1級 技能	6												
秘書技能検定準1級【技能】演習問題・解説	2												
秘書技能検定ケーススタディで学ぶ集中講義 準1級 マナー・接遇	5												
【マナー・接遇】接客応対・電話応対のロールプレイング	10												
合 計	105												
時間外学習について													
教科書で復習をすること。確認テスト・模擬試験・演習問題で誤った箇所については、訂正をし、提出する。													
成績評価の方法及び評価割合について													
検定試験・模擬試験・定期試験の結果80%、出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が95点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満のものはD(不可)とする。													
その他(科目と実務経験との関連性について)													
接客業に携わった経験から医療事務員が業務上、必要とすべきビジネスマナーや接客応対の仕方について講義や接客応対のロールプレイングを行い身に付けてもらう。													

シラバス

作成日

2022.04.01

科目名	キャリア教育			担当教員名	中島千春・工藤マリ・安藤寿雄	<input type="checkbox"/> 実務経験
学科名	医療情報	学科	学年	2	単位数(時間数)	2単位(35時間)
実施時期	4月～3月	授業形態	講義	<input type="radio"/>	演習	<input type="radio"/>
教科書 及び参考書						
授業の概要とねらい						
一般常識、SPI、作文、履歴書の書き方など一般教養として必要な知識を養う。また、就職試験に活かす。						
到達目標						
一般常識を身に付ける(解ける)。また、作文、履歴書の書き方を理解すること。						
授業計画						
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)	
オリエンテーション				1	就活対策、本校の就活スケジュール説明を行う。	
キャリア時代におけるキャリア教育とは				1	キャリア教育の定義、キャリア教育と進路指導の違いについて理解する。	
自分の将来設計とは				2	就職試験対策として「10年後の私」を考えレポートとして作成する。	
自己分析とは				1	就活の全体像、自分を知る、仕事を知る、自分のいる環境を知る、自分の長所(強み)、短所(弱み)、自分の特技を自己分析レポートにして作成する。	
自己PRとは				2	過去をふりかえる、プロフィールの記入法、実際に記入する、自己PRを作成する。	
自己PRのまとめと発表				1	自己PRまとめ、自己紹介と自己PRの実施(1人3分3分間スピーチ)を行う。	
業種と職種について				1	業種とは、職種とは、本学の求人票について(求人票の見方)理解する。	
一般常識模擬問題(計4回)				8	就職試験では一般常識問題が出題されることがあるため、受験の際に解けるように何度も行う。	
面接練習				4	具体的な展開と実践。	
作文の書き方・ポイント				2	受験対策の作文のポイントを押さえる。	
作文課題練習(計2回)				2	作文課題の提出・添削を行う。	
就活と採用試験の現状について				1	採用試験について求人票、書類提出、説明会、採用試験(1次:筆記試験、適性、SPI、2次:面接)の説明を行う。	
就職試験の研究				1	就職内定報告会を行う。	
履歴書作成練習				3	本校所定の用紙を使用する。添削を行う。	
オープンエントリーシートの作成				2	添削を行う。	
SPI問題(計3回)				3	就職試験ではSPIが出題されることがあるため、受験の際に解けるように何度も行う。	
合計				35		
時間外学習について						
自己分析レポート・作文課題・履歴書を作成して提出すること。						
成績評価の方法及び評価割合について						
定期試験の結果80%、出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が95点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満のもの及び未提出の課題があるものはD(不可)とする。						
その他(科目と実務経験との関連性について)						

シラバス

作成日

2022.04.01

科目名	コミュニケーション心理学		担当教員名	小田原 香織・工藤マリ		□ 実務経験	
学科名	医療情報	学科	学年	2	単位数(時間数)	2単位(35時間)	
実施時期	4月～3月	授業形態	講義	<input checked="" type="radio"/>	演習	<input type="radio"/>	実習
教科書 及び参考書	交流分析テキスト						
授業の概要とねらい							
自己肯定感を持ち、人との関りや考え方の偏り、繰り返す嫌なやり取りの正体を自覚しより良い対人関係を営む人材育成となること。							
到達目標							
自己分析により、進路選択や、社会人になるにあたり自己決定のできる心の成長をめざす。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
交流に対する理論			8	各項目でレポートを活用し自己開発する。			
人生の立場への欲求			8	伝える内容のアウトラインを決める。			
パーソナリティへの気づき			4	肯定感の定着を図るため長所とする。			
言葉のやり取りの3タイプ			4	癖や上手いできない事への確認作業			
繰り返すイヤなやり取りの正体			5	トラブル回避で行う一般的な事例発表			
無意識に作り上げる人生設計について			6	就活に入るにあたり設計図の書き換え			
合 計			35				
時間外学習について							
各項目のレポートを作成し、提出をする。							
成績評価の方法及び評価割合について							
各項目のレポート内容80%、出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、出席率80%未満や未提出のレポート課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							